

5日 金曜

列王 I

2:1 ダビデの死ぬ日が近づいたとき、彼は息子のソロモンに次のように命じた。

2:2 「私は世のすべての人が行く道を行こうとしている。あなたは強く、男らしくありなさい。

2:3 あなたの神、【主】への務めを守り、モーセの律法の書に書かれているとおりに、主の掟と命令と定めとさとしを守って主の道に歩みなさい。あなたが何をしても、どこへ向かっても、栄えるためだ。

2:4 そうすれば、【主】は私についてお告げになった約束を果たしてくださるだろう。すなわち『もし、あなたの息子たちが彼らの道を守り、心を尽くし、いのちを尽くして、誠実にわたしの前に歩むなら、あなたには、イスラエルの王座から人が断たれることはない』。

2:5 また、あなたはツェルヤの子ヨアブが私にしたこと、すなわち、彼がイスラエルの二人の軍の長、ネルの子アブネルとエテルの子アマサにしたことを知っている。ヨアブは彼らを虐殺し、平和なときに戦いの血を流し、自分の腰の帯と足のくつに戦いの血をつけたのだ。

2:6 だから、あなたは自分の知恵にしたがって行動しなさい。彼の白髪頭を安らかによみに下らせてはならない。

2:7 しかし、ギルアデ人バルジライの子たちには恵みを施してやり、彼らをあなたの食卓に連らせなさい。彼らは、私があなたの兄弟アブサロムの前から逃げたとき、私の近くに来てくれたのだから。

2:8 また、あなたのそばに、バフリム出身の



ベニヤミン人ゲラの子シムイがいる。彼は、私がマハナイムに行ったとき、非常に激しく私を呪った。だが、彼は私を迎えにヨルダン川に下って来たので、私は【主】にかけて、『おまえを剣で殺すことはない』と彼に誓った。

2:9 しかし今は、彼を咎のない者としてはならない。あなたは知恵の人だから、どうすれば彼の白髪頭を血に染めてよみに下られるかが分かるだろう。」

2:10 こうして、ダビデは先祖とともに眠りにつき、ダビデの町に葬られた。

2:11 ダビデがイスラエルの王であった期間は四十年であった。ヘbronで七年治め、エルサレムで三十三年治めた。

2:12 ソロモンは父ダビデの王座に就き、その王位は確立した。

父ダビデは愛する息子ソロモンに大切なことを教えます。それは「主の戒めを守り」なさいということです。信仰の遺産こそが最も大切な宝です。それを何よりも子どもに伝えるべきで、そのために人生をかけてもよいほどです。

また子は、信仰の親からは、その信仰こそ受け継ぐべきです。それが恵の「座から…断たれない」秘訣です。

ダビデは自分に対しての、人々の良い行いや仕打ちについて、ソロモンに警戒を与えます。そのようなことを人に表す時には、恨みから出たものであってはなりません。恨みは次の恨みを生み出します。悪の思いはキリストの愛によって、祝福に変えられる必要があります。それこそが、子どもや次世代を愛することになるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

